

平成24年7月27日

各位

会社名 中央化学株式会社
 代表者名 代表取締役社長執行役員 宇川 進
 (JASDAQ・コード7895)
 問合せ先 常務執行役員 経営企画担当 中野 保則
 役職・氏名 経営企画本部長兼広報IR部長
 電 話 048-540-2805

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成24年2月13日に公表しました業績予想を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

平成24年12月期第2四半期累計期間連結業績予想数値の修正(平成24年1月1日～平成24年6月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
					円 銭
前回予想(A)	31,000	1,300	1,000	700	34.74
今回修正(B)	28,275	452	230	184	9.13
増減額(B-A)	△2,725	△848	△770	△516	
増減率	△8.8%	△65.2%	△77.0%	△73.7%	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成23年12月期第2四半期)	28,906	833	694	171	8.49

平成24年12月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成24年1月1日～平成24年6月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
					円 銭
前回予想(A)	28,500	1,100	800	600	29.78
今回修正(B)	25,976	333	104	73	3.62
増減額(B-A)	△2,524	△767	△696	△527	
増減率	△8.9%	△69.7%	△87.0%	△87.8%	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成23年12月期第2四半期)	26,439	735	522	158	7.87

2. 修正の理由

(第2四半期累計期間)

第2四半期累計期間におけるわが国経済は、企業による投資活動に持ち直しの動きがみられたものの、欧州諸国における財政不安の継続や国内での消費税引上げ懸念・年金制度改革議論などによる景気の先行きへの不安感の強まりなどから、消費マインドは伸び悩み、デフレ・低価格志向・節約志向が進行する状況となりました。

この状況の中で、当社は、当初、昨年後半からの製品値上げによる販売価格水準を維持しつつ新製品の市場投入による販売数量増加等で売上拡大を図るべく営業活動を進めてまいりましたが、当食品包装容器業界に極めて関連性の深いスーパー・コンビニエンスストア・百貨店・その他食品加工業界においては、デフレ・低価格志向・節約志向の強まりに加え、5・6月の台風到来や天候不順などから一部を除き売上高が軒並み前年を下回る状況で推移し、当社製品の販売数量・販売価格もその影響を大きく受ける結果となりました。この間、当社は、独自素材であるSD・SPP（製品名）などの新製品を市場に投入し需要の掘り起こしなどにも努めたものの、投入タイミングやその規模からは投入効果が顕著に現れるのは年央・後半であるため、当該新製品による第2四半期累計期間での売上増加は限定的なものにとどまりました。

また、低調に推移する販売の状況を打開すべく第2四半期半ばからは、市場奪取に向けた価格政策も展開いたしましたが、前述の通り、天候不順の影響などもあり販売数量を著しく増加させるまでには至りませんでした。

以上の通り、販売数量未達・販売価格低下などの状況から、第2四半期累計期間の連結業績は、売上高が当初予想に対し約27億円下回る結果となりました。

営業利益・経常利益・当期純利益につきましても、原材料価格が期初において軟調に推移したことや安価原材料の購入に努めた結果当初計画に対し約2億円の仕入安となったものの、製品販売価格の低下と販売数量減少による利益の減少は吸収できず、営業利益8億48百万円未達・経常利益7億70百万円未達・当期純利益5億16百万円未達となりました。

(通期)

第3四半期以降においては、当社独自素材であるSD・SPPの投入を強化するとともに、8～9月に開催予定の当社商談会を最大限活用し、業績の向上に努めてまいります。

現時点において、第3四半期以降の業績予想については見直しを含め精査中でありますので、業績予想への影響が判明次第お知らせする予定でございます。

以 上